

## 「市長と一緒にティータイム」対話概要

団体名 長浦地区まちづくり協議会  
実施日時 令和7年8月19日（火）午後2時～3時30分  
実施場所 市役所政策会議室  
出席者 長浦地区まちづくり協議会 12名  
市 3名  
テーマ 「コミカフェながうら」の活動状況等について

### 意見交換

**長浦**：「コミカフェながうら」は、金田地区のコミュニティカフェを視察したり、事務局や社会教育推進員の皆さんのお力を借りたりして、「問題のあるところはその都度対応しましょう。」を合言葉に6月から3回開催することができました。これからも継続的に開催していくよう、市長と意見交換をしたいと思います。

**長浦**：2月にコミカフェの話が出て、6月には初開催と、スピードに進みました。初回は80名を超える方が来場され、来場者アンケートでは、「このようなコミュニティを提供してくれるのは非常にありがたい。」という声が多くありました。地域の議員さんも積極的に来場してくださり嬉しかったです。

**長浦**：野菜やパンの販売をしましたが、売れ行きが大変好調でした。

**長浦**：金田コミュニティカフェに行ってみましたが、雰囲気がとても良かったです。まちづくりとして柱となるものがあると良いと考え、長浦地区でも開催することになりました。金田コミュニティカフェでは木更津市の職員が手伝っていますが、若い方が参加すると雰囲気が明るくなりますので、袖ヶ浦市の職員も参加していただけると良いと思います。



**長浦**：金田地区のコミュニティカフェでは体重や血管年齢の測定などを同時開催していました。袖ヶ浦市でも同様にできれば、高齢者が参加するきっかけにもなりますので検討してください。

**長浦**：交流センターは、これまで用がなければ来ない場所でしたが、コミカフェ

ながうらが、交流センターに足を運ぶきっかけになると良いと思います。

**市長**：体重測定などは、参加のきっかけになるとと思いますので、検討します。

**長浦**：できる人が、できる時に、できる範囲で無理をしないでやろうと考え、皆で協力しています。



**長浦**：私は、金田コミュニティカフェの開始当時からボランティアとして参加していました。金田のまちづくり協議会の男性の中には、給仕に消極的な方もいましたが、長浦では、誰もが積極的に給仕をしています。

**市長**：金田コミュニティカフェは、どのような経緯で始まったのですか。

**長浦**：金田コミュニティカフェは、新規住民と既存住民の交流が必要だという観点から始めました。

**長浦**：コミカフェながうらは、平日に開催しているので、参加者は高齢者が多いのですが、若い方も参加できるよう、土日にも開催し、高齢者と若い子育て世代の方が交流できる場になると良いと思います。

**長浦**：子育て中の方にも来てもらい、地域の方が子どもを見ている間にパンを選んで買う、話をする、温かいものを飲むといったことができると良いと思います。また、子どもにとっても、地域の方と関わることは良いと思います。

**長浦**：キッズスペースを作ると大人もくつろげますので、工夫をして、新たに移住した子育て世代の方にも参加してもらえるようにしたいです。

**市長**：毎月、市の定例記者会見と日程が重なってしまうので、7月、8月は参加できませんでしたが、6月に伺った際には、良い雰囲気で開催されていました。今後も、様々な工夫をされ、子育て世代の方も含め、多くの方に参加してもらいたいと思います。

**長浦**：6月に参加したお子さんが、家でお母さんに話をして、夏休みに親子3人で来て楽しんでくれました。このようなことが私たちの活動の原点です。金田コミュニティカフェの方からは、コミカフェながうらは、若い方も立ち寄り

活気があり、スタッフの動きも非常に良いと言われました。来場者アンケートでも、スタッフの対応が好評です。今後もコミカフェながうらを継続して開催するには、人を飽きさせない工夫が必要ですので、地域の方が何か発表するような催しをしても構いませんか。

**市長**：公民館は教育の場という考えでしたが、より多くの市民の方や市民活動団体等が施設をさらに活用しやすくなるよう利用制限の緩和を図り、交流センターとしました。他の利用者もいますので、ロビーではBGM程度とし、大きい音を出して発表をするような場合には、多目的室やホールをご利用ください。



**長浦**：金田コミュニティカフェでは、楽器を演奏していましたが、金田の交流センターは行政センターではないので、演奏できるのかもしれません。

**市長**：金田の交流センターは、市民の活動を目的とした建物だと認識しています。袖ヶ浦市の交流センターとは少し違いますので可能なのかもしれません。

**長浦**：公民館から交流センターへ変わりましたが、行政センターが同じ建物にあると、音などへの配慮が必要となるため、使い方は公民館の時と変わりません。



**市長**：行政センターは、地域の皆さんの利便性を向上させるため、公民館に設置したものです。交流センターは様々な機能を持っていますので、他の利用者にもご配慮してご利用ください。

**長浦**：交流センターは交流の場ですが、ロビーに自習スペースがあると、静かにしなくてはならないので、会話をして交流することができません。自習スペースを長浦おかのうえ図書館に移動すれば、ロビーの有効活用にもなると思います。以前は、図書館1階に地域包括支援ながうらサブセンターがありましたが、移転後のスペースはどのように利用していますか。

**市長**：地域包括支援ながうらサブセンターの後のスペースは、教育センターが相談事業などで使っています。

**長浦**：図書館の1階ロビーを自習スペースにしたらどうでしょうか。

**市長**：自習スペースは、子どもたちが安心して利用できるよう、大人の目の届くところへ設置していますので、図書館の1階ロビーを自習スペースにすることは考えていません。



**長浦**：南庁舎の市民交流広場で自習する方がいますが、あの場所は市民が交流するスペースです。自習スペースのニーズがあるならば、別に自習の場を作り、交流広場は交流に使えるようにすると良いと思います。

**市長**：現在、市民会館のフリースペースを、自習も可能な子どもの居場所として解放しています。この場所は、地域の方々が集まる交流センター内にあるため、大人の目が届きやすく、子どもたちが安全に利用できます。また、交流センターならではの、地域住民との交流や情報交換の機会も提供できると考えています。

**長浦**：「長浦まちづくり協議会」は「長浦学区」というイメージがあり「蔵波学区」は関係が薄いと感じている方が多いようですが、協議会の活動は学区とは関係ないので、多くの方に参加してもらいたいです。

**市長**：交流センターでの活動を多くの方に話し、広げ、足を運んでいただけだと、地域の一体感が生まれてきます。地域の活動に参加する機運作りが必要です。



**長浦**：コミカフェながうらの開催を機に、地域の方に認めてもらえるような定着した活動をしていきたいと思います。

**市長**：まちづくりは、私や職員だけでは解決できない課題が多くあります。市とまちづくり協議会、地域の皆様がそれぞれの立場から連携し、ともに地域の活性化に取り組むことが重要となりますので、今後ともご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。本日は誠にありがとうございました。